



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内371)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.553
所長 三宅裕一
発行責任者 山田 恭正
発行日 令和2年9月18日
題 目 教育長



「マスク着用、前を向いて、
学校の新しい
生活様式」
撮影 肥田小学校
西尾 治久 事務職員

「子どもが集中する話し方」

土岐市教育研究所長 三宅 裕一

私が教師になろうと思った理由の一つに、学園ドラマの影響があります。小中時代は「われら青春」「熱中時代」「ゆうひが丘の総理大臣」、高大時代は「3年B組金八先生」「スクール☆ウォーズ」、教師になった頃は「教師びんびん物語」など、次々と、教師が主役のドラマがヒットしました。先日、ある番組で「近年教員志望が減っているのは、教師がヒーローになる学園ドラマがないからだ。」と言っていました。確かにそれもあるかなと思います。小中学生・高校生を前に、熱く語る教師、それを真剣な眼差しで聞いている子どもたち、そんなシーンにあこがれをもったものでした。

初任の頃、授業や学活でそんなシーンを目標に、一生懸命話をしましたが、とてもそんな風にはいきません。子どもたちを集中させる、子どもたちを惹きつける、とても高いハードルでした。経験値の足りなさを実感しました。それからやったことは、先輩教師から学びとること、いろいろな本（教育図書）を読むこと、他人に見てもらって助言をもらうことなど、自分なりに努力をして経験値を高め、レベルアップしてきたつもりです。

森川正樹氏は著書の中で、子どもが集中する話し方は、次のことを習慣化することだと述べています。きっと多くの先生方が実はやっていることだと思いますが・・・

◆「繰り返しません」と最初に言い、実際に繰り返さない

結局そうは言っても何度も繰り返すことがあります。高学年以上の子などそういうところ

はよく見えています。いつもでなくてもいいですが、本当に繰り返さない、そこが大切です。

◆数字を入れながら話す

「ナゴヤドーム〇個分」「土岐市の人口が約6万人だから、土岐市の約〇倍の人数の人が…」など、説得力が増します。

◆小出しにしながら話す

黒板に字を伏せて貼っておき、少しずつ出す。黒板に少しずつ書く（言う）。アナグラムの的に書いて（話して）いく（一つの単語の文字を最初から書かずに、三文字目や最後の文字から書き始める）。

◆「話し出し」を意識して話す

感嘆詞から始まると刺激的な話になります。「『えーっ！』って思ったんだよ、先生。そのことを話すね」「あちゃ〜って失敗したこと、みんなもあるよね。先生にも…」話の傾向を知らせると、安心して、安定して聞くことができる話になります。「今からほめるよ」「みんなの良いことを言いますね」いきなり本題で入る場合もあります。

「今日の授業でどうしてもほめたい驚きの人を4人紹介します。それが…」

◆ためる

「先生が今までたくさんの子を教えてきて、子どもたちが毎回毎回間違える強敵の字があります。何だと思いませんか」と言って黒板に書くと、注目度が違います。少し“ためる”だけで子どもたちに適度な緊張感を与えたり、興味を引いたりすることができます。

楽しむこと

土岐市教育委員 大野 良子

年に数回、中学校に講演を依頼されます。学校薬剤師として、保健体育の時間をいただき、薬物乱用防止教室の講師をします。珍しい人？が来たことや、内容も日常出合いにくいこともあり、生徒さんたちは静かに耳を傾けてくれます。毎年恒例の学校行事として、私の担当校は日程を早くから決めお知らせ頂きます。保健所から資料を取り寄せ、養護教諭や学年主任の先生と打ち合わせて、当日を迎えます。時代とともに、少しずつ流行り？の薬物もかわりますが、基本は同じで・・・学年3クラスあれば、クラスのカラーがあり、授業が終わった後の反応が楽しみです。最後のクラスでは、質問も出ました。また、私に向かって「また、来てくれますか・・・」と声をかけてくれる生徒。それが嬉しくてこのような授業を、数十年続けています。もちろん、学校からの依頼がなければ成り立たない私の「ワクワク」ですが。

6月、小学校にて「手を洗おう、綺麗に」の題材で、3年生の3クラス、それぞれに授業をさせて頂きました。小学校での出前講座は、久しぶりで、子どもたちも目を輝かせてくれました。なぜマスクしてるの？なぜ新型コロナっていうの？このウイルスはどこからきたの？何から発見されたの？「新しい生活様式」になったことを、よく承知した子どもたちでした。手洗いの順番を待っている子たちに「学校たのしい？」「うん！楽しい！」「どこが？」「みんなと一緒におしゃべりや遊ぶこと。給食もおかわりしちゃった。おいしかった！」授業再開から、3週間過ぎ給食が始まったばかりの日でした。こどもたちは、不安もあるけれど、何だか嬉しくて楽しくて、毎日を過ごしているんだな～。学年が上がればあがるほど、悩みの種も多くなるけれど、元気が一番だと、子どもたちをみていて「ルンルン」を頂きました。

今年は夏休みが9日間しかありませんでしたが、20年以上前の私の子どもの夏休み作品の話を少

し。6年生まで、毎年何らかの形で作品を提出しました。題材に悩みました。子どもではなく私自身が。工作から絵画、科学作品、社会作品、読書感想文まで私が主導。今の言葉でしたら「独(毒)母」かも。ある年の作品は80cmの段ボールアンパンマンポスト・・・。学校へ持ち寄り子どもが作品紹介を書きました。「お母さんが作って、私が色を塗りました。」子どもは正直です！その後、担任の先生の計らいで、郵便局に飾られました。独母の私は、子どもの帰りを待ち、郵便局にて通帳を作り飾られたポストの前でカシャ！写真を拡大し、今でも応接間に飾ってあります。作品作りをしたあの頃の「ワクワク」を思い出します。

世間では、コロナウイルス感染症対策で、「新しい生活様式」が求められています。密閉・密集・密接のいわゆる「三密」を回避し、ソーシャルディスタンスを保つことやマスクの着用など、日常生活はかなり制限されています。気持ちが沈むこともしばしば。このような時だからこそ、学校や普段の生活の中で『楽しみ(ワクワク)』や『うれしさ(ルンルン)』を見つけて日々を歩んでいきたいものです。そして、元気を充電したら子どもたちにも“ワクワク感”“ルンルン感”が感じられる学校生活の工夫をお願いします。



「出前講座～手を洗おう、綺麗に～」

土岐津小学校

**研究主題 「やってみたい」「なぜだろう」「もっとやりたい」と意欲的に遊ぶ子
～主体的に遊びを生み出す環境構成と援助の工夫～**

土岐市立駄知小学校附属幼稚園

1 はじめに

令和2年11月20日に本園で研究発表会を予定していました。東濃地区幼稚園・こども園教育研究会の会場園も兼ねていたため、東濃地区の幼稚園・こども園の教諭等が約200名集まって、公開保育の様子を参観していただくはずでした。そんなにも多くの方が集まるとは、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高まり、大変心配であったため、研究発表会の形を変えて実施ということにいただきました。

2 研究仮説

発達段階や個々の特性を捉えた児童理解をもとに、子供の興味・関心に応じて環境を構成し、主体的な姿を生み出すための指導・援助を行うことで、意欲的に遊ぶ子を育成することができる。

上記の研究仮説をもち、以下のような研究内容で研究を進めています。

3 研究内容

研究内容Ⅰ（幼児理解と指導計画）

- ①主体的な姿を窓にして、思いや考えを捉え、指導計画を立てる。（保育日誌を活用して）
- ②主体的な姿について、全職員で共通理解し、指導の改善を図る。（テーマ研を通して）

研究内容Ⅱ（環境構成）

- ①子供の気付きや発見を捉え、用具や教材等を工夫し、興味・関心が高まる環境を構成する。
- ②発達や年齢に応じて、試行錯誤できるような環境を構成する。

研究内容Ⅲ（指導・援助）

- ①子供の姿に応じて、主体的な姿につながる言葉かけや見守りをする。
- ②遊びの継続性・発展性をもたせ、次の活動への期待感を高める援助をする。

4 研究の日常化について

本園は3歳児、4歳児が1学級。5歳児が2学級の全4学級で、5歳児には支援員が一人います。本園では、基本的には子供たちは2時半に帰ります。その後、5歳児の6割くらいは、預かり担

当の職員が、お迎えの時間まで一緒に過ごします。

担任や支援員は、子供から手が離れる15時頃から勤務時間の終わる17時15分までの時間を使って、研究を進めるようにしています。

基本的には、毎週水曜日には、研究に関わる会議をもちます。（以下は、月の会議予定です）

	第1週	第2週	第3週	第4週
月	打合せ	打合せ	職員会	打合せ
火				
水	テーマ研	週案研	テーマ研	月案研
木		園長会	副園長会	教務主任会
金	特支推進委		特支推進委	

月・週案研では、1か月の見通しをもったり、その週の取組の細かな打ち合わせをしたりします。

テーマ研では、日誌などをもとにして、子供のことや研究内容に関わって取り組んできたことを1回につき一人が、A4、1～2ページにまとめて提案します。その提案内容について、全員が意見を言います。あまり研究会が長時間にならないよう効率よく進めることを心がけていますが、職員が少ないので、何度でも意見を言うことができます。うまくいかなかったこと困っていることなどが提案されると、みんなで知恵を出し合い、明日からの指導に生かせそうなことを見つけるようにしています。



5 新しい形の研究発表について

12月中旬には、研究をまとめた刊行物、研究発表会で予定していた公開保育の指導案と子供の活動を撮影したDVDを関係する幼稚園等に配布することで、発表に代えさせていただきます。配布した資料を活用して、会員の方に研究を深めてもらいたいと思っています。

市内の幼稚園・こども園の先生方には、12月25日の午後、本園に集まっていただき、分科会を行っていただく予定です。

学力向上推進委員会 今年度の実践の方向

学力向上推進リーダー 下石小学校 教頭 松原敦也

1 今年度の重点

「土岐市スタンダード授業」 令和2年度の重点

- ① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化
⇒何ができれば(わかれば)よいのか
- ② 「何を」「どう」すればよいか
明確にわかる課題設定
⇒課題は位置づいているか
⇒終末の姿に向かうものとなっているか

「土岐市スタンダード授業」を作成した背景には、主体的・対話的で深い学びを柱の一つとした新学習指導要領への移行の中で土岐市すべての先生方に授業力を高めていてもらいたいという願いがあります。

大量退職・大量採用の時代です。当然土岐市も例外ではありません。ベテランの先生から若い先生へと授業の継承が自然となされていくということが難しくなってきました。授業力格差も出てきます。そんな中、授業を構成していく上でのよりどころとなる「標準的な仕様」を示していきたい、それが「土岐市スタンダード授業」です。

ぜひ、このスタンダード授業に書かれた内容を各学校で大事にし、取り組んでいただきたいと考えています。一方でここに書かれた内容の全てを、全ての先生に、いつも意識していただくことは、取り組みの初年度、コロナ禍の授業ということもあって難しいとも考えています。そこで学力向上推進委員の企画委員会ではここまで何度か話し合いの場をもち、今年度の重点を絞り込みました。

企画委員会では、当初先生方のニーズから協

働的な場面を重点にしようと考えていました。しかし、コロナ禍の中で、なかなか対話ができないのが現状です。そこで、協働的な学びの場面において何を大切にしたらよいかを検討し、協働的な場面を大切にするためにはその土台となる左図に示した二つが必要だろうという結論に行き着きました。

2 終末の姿の具体化

授業の中で私たち指導者は下に示すような様々な手立てを打ちます。

- ・深めの発問
- ・グループ交流・ペア交流等の形態の工夫
- ・ICTの活用による視覚化
- ・ハンドサインをいかした発言の組織化
- ・本時の手立てとなる既習事項の振り返り
- ・学習状況の見届けによる実態把握 など

これらは、言うまでもなく子供たちに「できた!」「わかった!」を味わわせるために行います。しかし、この「できた!」「わかった!」の中身が漠然としていたり、複数あったりすると手立ては生きません。手立ては方向性を失います。手立てのための手立てとなってしまう。逆に手立てが具体的なものになっていれば出口に向かう効果的な手段となります。

では、終末の姿の具体化について、「少年の日の思い出」(中学校1年生国語教材)を例に説明します。

〈物語のあらすじ〉

主人公の「僕」はちょう集めのことが大好きなあまり、知り合いの少年が持っている珍しいちょうを盗み、誤ってそのちょうをつぶしてしまうという話。

〈取り上げる場面〉

「僕」がちょう集めのことを大好きであると様々な表現から読み取れる第2場面。「この遊戯のとりこ」「強く思い出をそそられる」や「熱情的な収集家」、神秘的な情景描写などから読み取れる。

〈まとめ（終末の姿）の例〉

【第2場面まとめ Aさん】

今日の授業を通して「僕」はちょう集めのこと大好きだと読み取ることができました。→▲表現へ着目がない

【第2場面まとめ Bさん】

「熱情的な収集家だった」とあるので、ちょう集めのこと大好きだと読み取ることができました。→▲表現の分析がない

【第2場面まとめ Cさん】

僕は「全くこの遊戯のとりこになり」という表現に注目しました。「とりこ」も「大好き」も「好き」という感情が強いという点では同じだけど、さらに「とりこ」からは、「そこから逃げ出せない」という意味が感じられます。「僕」はちょう集めに対する「好き」という感情をコントロールできないでいることが読み取れました。

→○「僕は、全くこの遊戯のとりこになり」という表現への着目。

→○「とりこ」と「大好き」という表現を比べて何がわかるかという分析

→○「好き」という感情をコントロールできないでいるという一人読みから

「①どの表現に着目するのか」「②着目した表現をどう分析するのか」そうすると、「③一人読みからのどのような広がり・深まりが得られるのか」この3点を国語の読み取りでは明ら

かにしたいと考えます。これだけのことを明らかにすれば自然と、その出口に向かうためにどんな手立てを用意しなくてはならないかが見えてきます。

手立ての一つである深めの発問でいえば、『僕』はちょう集めが大好きなんだよね。だったら、『僕は全くこの遊戯のとりこになり』という表現は、『僕は全くこの遊戯が大好きになり』でいいのでは？」と投げかけることが見えてくるということです。

3 明確な課題の設定

せっかく出口の姿を明確にしても、課題が子供に示されていないなかったり、曖昧だったり、示された課題が出口の姿とは違う方向を向いていたりすると、子供は何をしていいかわからず混乱します。出口に向かって設定した指導者の手立てもぶれてしまいます。「広がり・深まりのある終末の姿」に子供の意識が向かうような課題を設定したいです。

【第2場面課題A】

ちょう集めに対する「僕」の思いを読み取ろう。→▲「何を」「どうすれば」があいまい

【第2場面課題B】

ちょう集めが大好きという「僕」の思いについて根拠を明確にして250字程度で説明しよう。→▲「表現を根拠にして」の部分はまだあいまい

【第2場面課題C】

ちょう集めが大好きだという「僕」の思いを「とりこ」という表現に着目して250字程度で説明しよう。

Cの課題が手本といえるか分かりませんが、各学校で実践を積み上げていただいて、課題の在り方について明らかにしていきたいと考えています。

楽しい保育をすれば子ども達は笑顔になる

西部こども園 園長 飯田 明子

新人保育士の頃、先輩から「保育中眉間にしわがよってるよ。そんな表情では子ども達は楽しく活動できないのでは。自分が楽しいと思わない活動は子ども達も楽しくないよ。楽しい保育をすれば子ども達は笑顔になるのでは」と話をしてくれました。当時は、一日の保育を安全に終えようと無我夢中で、子ども達に寄り添った保育はできておらず反省ばかりでした。

喜劇王のチャップリンの名言に「いい一日だったかどうか。笑顔は指標らしい<笑わない日は無駄な一日だ>」という言葉があります。2歳児の女兒が保護者の迎えを待っていた時に他の園児の保護者と話していた保育教諭の顔を見て「先生はいつも笑うよ。もうすぐ笑うよ。ほら笑っとる」

と微笑んで話してくれたことが印象的でした。笑顔での温かい保育に癒され、気持ちが満たされていました。その子にとって今日はいいい一日だったと安堵し、私たち保育教諭は子ども達の笑顔を保証した保育に努めていくことが大切だと改めて考えさせられました。

笑顔を向けられて嫌な気持ちになる人はいないと思います。むしろ笑顔、笑いから大きな力をもらえると思います。私自身も周りの人の多くの笑顔に支えられて頑張ってきました。今だからこそ、たくさん笑える環境づくりを行い、子ども達といいい一日が過ごせるように笑顔で触れ合っていきたいと思っています。

掲 示 板

◇土岐市児童生徒科学作品展 金賞受賞者

駄知小	1年	いど なつほ	泉 小	4年	たけだ いちか
土岐津小	2年	小山 はるき	土岐津小	5年	宮地 利奈
下石小	2年	むとう わ来	下石小	5年	依田 悠花
泉西小	2年	高はし さき	土岐津中	1年	岩本 汰朗
土岐津小	3年	よしかわ まさや	西陵中	2年	片山 紗杏
下石小	3年	加藤 るい	西陵中	2年	水野 真風歩
下石小	3年	野田 善大	泉 中	2年	瀬瀬 陽香
土岐津小	4年	小山 凜咲希	泉 中	2年	和田 歩佳
土岐津小	4年	加藤 遙真	西陵中	3年	小川 みどり子
駄知小	4年	高見 真冴斗	濃南中	3年	林 未来

◇土岐市社会科課題追究学習作品展

〈最優秀賞〉土岐津小 5年 木村 歌菜

〈優秀賞〉泉小 1年 あんどう けいご

泉 中 1年 有賀 結菜

◇土岐市読書感想文コンクール 金賞受賞者

土岐津小 2年 小山 はるき

泉 小 6年 野村 美稀

土岐津小 4年 能見 友理

西陵中 3年 林 志緒里